

第3回 地震・地震動検討会 議事録

1. 開催日時：平成18年 3月 10日(木) 13:40～16:30

2. 開催場所：(社)日本電気協会 4階 D会議室

3. 出席者：(順不同, 敬称略)

委員：翠川主査(東京工業大学), 瀨瀨副主査(東京大学), 久野幹事・梅木
(中部電力), 佐伯(北海道電力), 尾形(東北電力), 八代(東京電力),
小笹(北陸電力), 伏見(関西電力), 高橋(四国電力), 園(九州電力),
武村(鹿島建設), 壇(清水建設) (計13名)

代理出席：阿比留(中国電力・河野代理), 坂本(電源開発・坂田代理)

川里(日本原子力発電・阿部代理), 東(電中研・佐藤代理)(計4名)

オブザーバ：敦賀(東京電力), 岡崎(関西電力), 生玉(日本原子力発電)

田中(原子力安全基盤機構), 菊地・徳光(東電設計), 兼近・池浦(鹿島
建設), 石川(日本原燃), 高橋・中村(サイクル燃料貯蔵) (計11名)

事務局：荒木(日本電気協会) (計1名)

4. 配布資料

資料 No.3 - 1 第2回 地震・地震動検討会議事録(案)

資料 No.3 - 2 原子力発電所耐震設計技術指針
第3章 耐震設計で考慮する地震と地震動(案)

参考資料 1 改訂耐震設計審査指針の本文及び解説のテキスト原案について
(事務局案：その8)

参考資料 2 JEAG4601地震・地震動関連の改定について(案)

参考資料 3 基本方針タスク議事録(案)

5. 議事

(1) 前回議事録(案)の確認

前回議事録(案)が原案通り承認された。

(2) 原子力発電所耐震設計技術指針 第3章 耐震設計で考慮する地震と地震動

資料 No.3-2 により、地震動分野の改定案について久野幹事、梅木委員より説明が行われた。

審議の結果、一部修正したうえで、3月31日開催予定の耐震設計分科会で二次案として説明することとした。

審議・コメント内容を以下に示す。

- a. 国の耐震指針改訂が正式に決まっていな段階で、J E A G改定最終案とするのは、無理であり、分科会には二次案としてあげること。
- b. 3.2.1.2 本項で記載している活断層と「3.1.2 用語の定義」で記載している活断層との区別がつくように表現を見直すよう、土木構造物検討会側と調整すること
- c. 3.2.3 地震動評価で「経験的な方法もしくは断層モデルを用いた方法」となっている部分は、「原則として経験的な方法および断層モデルを用いた方法」に修正し、解説に震源の破壊過程が敷地の地震動評価に大きな影響を及ぼさないと考えられる場合は、断層モデルによる方法を省略できる事を追加すること。
なお、「経験的な方法」は「距離減衰式を用いた経験的な方法」に記述を統一すること。
- d. 3.3 震源を特定せず策定する地震動の解説に、最新の知見や観測記録に基づき確認していくことを追記すること。
- e. その他、以下の記述を見直すこととした。
 - 3.1.2 用語の定義で、地震基盤のせん断波速度は、 $V_s=3\text{km/s}$ 程度に修正すること。また内陸地殻内地震、プレート間地震、海洋プレート内地震の定義を追加のこと。
 - 3.2 震源を特定して策定する地震動解説の評価項目は、国の耐震指針の用語に合せ、プレートの応力状態を応力場に修正のこと
 - 3.2.1.1(1)各種調査資料 解説の観測資料は、観測網が整備され、各種観測記録が公開されている主旨で記述を見直すこと。
 - 3.2.1.5 のタイトルを「その他の地球物理学的な知見」に修正すること。また、解説にある「諸量」を「情報」に修正すること。
 - 3.2.2.2 プレート間地震の解説で震源位置は、過去の地震の震央位置だけでなく、プレート境界の位置を考慮して設定する主旨で記述を見直すこと。
 - 3.2.3.1 敷地における地震動特性の本文に弾性波速度の調査を追加し、解説は地震観測の他に常時微動、弾性波速度も参考にすることができる主旨で記述を見直すこと。
 - 3.2.3.2 経験的な方法で、英文のままの記述や文字が不揃いな部分があるので見直すこと。
 - 3.4.1 応答スペクトルの策定と3.4.2 模擬地震波を2つに分けているが、断層モデルは直接地震波が求まるため、3.4項として統一し、解図3.4-1 S s 策定フローに合せ表現を見直すこと。
3.4.1 応答スペクトルの策定本文中の不確かさ(ばらつき)は、不確かさで記述を統一すること。また解図3.4-1 S s 策定フローから、不確かさ(ばらつき)を削除すること。

以 上